

告 辞

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

本日ここに小学校の全課程を修了されたことを、心からお祝い申し上げます。

思えば、桜の花咲く4月、真新しい大きなランドセルを背負って本校に入学されてから、早6年の年月が過ぎ去りました。

この間、皆さんは学校生活における様々な活動を通して、学ぶ楽しさを知り、友情を育み、そして、心と体を鍛えてられました。皆さんがこのように立派に成長され、本日の卒業式を迎えることができたのは、皆さん自身の努力はもちろんですが、ご家族や先生方、地域の方々など、大勢の皆様のお陰だということを忘れないでください。

これから新たな一步を踏み出す皆さんに紹介したいことがあります。

昨年秋に開催されましたラグビーワールドカップ日本大会において、言葉や生活習慣など、出身の国や文化が違う選手で構成された日本代表は、「ワン・チーム」をスローガンに、ベスト8という偉業を成し遂げました。国籍や文化の違いなどの個性や多様性を尊重する心と様々な人達と理解し合えるコミュニケーション力を基に、共通の目標のために協力し合う真のチーム力が発揮されたからです。世界は、今、国籍や文化も違う様々な人々が共存する社会へと大きく変わり始めようとしています。ラグビー日本代表の「ワン・チーム」の姿から未来の私たちに必要なものを学ぶことができるのではないのでしょうか。

また、12月には、吉野 彰さんがノーベル化学賞を受賞しました。どんな材料を電極に使用すれば安全な電池になるか、根気強く研究を続けた結果、繰り返し充電が可能、かつ軽量で高出力なりチウムイオン電池を開発しました。現在、スマートフォン、ノートパソコンなどの多くの電子機器をはじめ、電気自動車の充電池にも使用されています。「小中学生のうちに大切なのは、興味を持てるものをみつけることです。そのためにいろいろなことを試し、刺激を受けてください。」「もしも失敗が続いたとしても焦らないでください。」「失敗から学んだ経験が、きっとあなたを成長させ、困難を乗り越える力になります。」という吉野さんの言葉から、自分の興味や関心を大切に、課題意識を持って、粘り強く取り組むことの大切さを教えられました。

卒業生の皆さん、4月からは中学校へ進みます。中学校時代は、「自分探し」が課題となる時です。大いに夢を語り、自分の生き方を描くことが大切です。そのためには、何事にも興味をもって「追求する意欲」を抱き続けてください。夢は始めからはっきりと見えるものではありません。学習や運動や趣味など興味あることにひたむきに打ち込んでいくうちに、確かな形となって見えてくるものです。焦らず日々の努力を着実にやっていけば、大きく羽ばたくことができます。3年後のいっそう逞しくなった皆さんの姿を楽しみにしています。

結びにあたり、今日のよき日を迎えられました保護者・ご家族の皆様、温かく見守ってくださいましたPTAや地域の方々に対し、心からお慶びを申し上げます。

また、今日まで熱心にご指導いただきました、校長先生をはじめ、教職員の皆様方に厚くお礼を申し上げますとともに、今後とも、卒業生を見守り、温かくご指導いただきますようお願い申し上げます。

卒業生の皆さんのご健康とご多幸を心からお祈りし、告辞といたします。

令和2年 3月17日

珠洲市教育委員会